

「市民による河川環境の見かた・調べかた ～英国「PRAGMO」に学ぶ～」開催のご案内

地域が主体となった河川の効果的かつ持続的な再生のためには、河川の特徴や課題に応じた再生及び活動の目標設定と河川の状態や自然環境を把握するための適切な環境調査(モニタリング)が重要です。

河川再生の分野で先進的な活動を展開する英国では、英国河川再生センター (the River Restoration Centre) により、市民のための河川環境調査手引きとして「PRAGMO: Practical River Restoration Appraisal Guidance for Monitoring Options」が 2011 年 11 月に作成・公開されました。

本講演会は、英国における河川再生の取り組みを英国河川再生センターのジェニー・マント博士にご教授いただくとともに、日本国内における活動事例を紹介し、地域主体の河川環境の見かた・調べかたの理解を深めていくものです。

1. 日 時： 2012 年 12 月 1 日(土) 13:30～17:00
2. 場 所： 発明会館ホール (東京都港区虎ノ門 2-9-14)
3. 内 容：

13:30～13:35 開会挨拶 佐合 純造 (日本河川・流域再生ネットワーク事務局長)

13:35～13:40 英国の河川環境調査手引き「PRAGMO」の紹介

日本河川・流域再生ネットワーク事務局

13:40～14:40 基調講演 1: 「PRAGMO」作成の背景と主な特徴、その活用について

ジェニー マント (英国河川再生センター 科学・技術マネージャー)

14:40～15:10 基調講演 2: 荒川における河川再生の取り組み

恵 小百合 (荒川流域ネットワーク 代表)

15:10～15:25 休憩

15:25～16:55 総合討論：

市民による河川環境調査の更なる推進に向けて何が必要か

座 長：白川 直樹 (筑波大学 准教授 / ARR 技術委員)

パネラー：ジェニー マント (英国河川再生センター 科学・技術マネージャー)

恵 小百合 (荒川流域ネットワーク 代表)

山道 省三 (NPO 法人全国水環境交流会 代表)

藤井 政人

(国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 河川環境保全調整官)

16:55～17:00 閉会挨拶

※講演会後に懇親会を予定しております。あわせてご参加下さい。(会費：3,000 円程度)

4. 定 員： 200名 参加費無料
5. 通 訊： 日英逐次通訳
6. 申込方法： 以下の情報をご記入の上、E-mail 又は FAX にてお申し込み下さい。

【E-mail：j-event@rfc.or.jp Fax：03-3523-0640】

- ① 氏名 (ふりがな)、所属
- ② 会員種別 JRRN 会員 / 非会員
- ③ 連絡先 (e-mail, 電話番号)
- ④ 懇親会への参加の有無

7. 主 催： 日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN), Asian River Restoration Network (ARRN), 公益財団法人リバーフロント研究所
8. 後 援： 英国河川再生センター (the River Restoration Centre)
9. 特 典： 本行事へ参加された皆様に PRAGMO (日本語翻訳版) を謹呈させていただきます。

【開催事務局・問い合わせ先】

日本河川・流域再生ネットワーク事務局 (伊藤 将文、後藤 勝洋)

E-mail：info@a-rr.net

申込様式 (Fax 用)

E-mail : j-event@rfc.or.jp / Fax : 03-3523-0640

必要事項 (氏名・所属・連絡先 (E-mail もしくは電話番号)・懇親会への参加の有無) を明記の上、E-mail または FAX でお申込み下さい。(申込〆切日 : 11 月 23 日 (金) 17:00)

ふりがな	
氏名	
所属	
会員	(いずれかに○) JRRN 会員 / 非会員
連絡先	E-mail :
	電話 :
懇親会	(いずれかに○) 参加 / 不参加

※記入された個人情報、ARRN 及び JRRN が主催する講演会等のご案内に利用させて頂く場合がございますので、ご了承願います。

会場のご案内

発明会館

〒105-0001

東京都港区虎ノ門 2 丁目 9 番 14 号

- ・ 銀座線 虎ノ門駅 3 番出口より 徒歩 5 分
- ・ 日比谷線 神谷町駅 4 番出口より 徒歩 6 分



日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 及び ARRN とは？

「第 4 回世界水フォーラム」(2006 年 3 月・メキシコ)において、河川・流域再生の情報交換ネットワーク、データベースの構築及びアジア地域の特性に対応した河川・流域再生技術指針の作成に向けたアジア諸国連携の必要性が提唱され、2006 年 11 月に日本・中国・韓国 3 ヶ国により「アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)」が設立されました。

また、「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は ARRN の日本の窓口として、また日本における河川再生に関する情報を共有できる組織として、会員間のコミュニティーを拡げながら、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目指しています。



JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。



公益財団法人リバーフロント研究所

建設技術研究所
国土文化研究所